



白石えつ子  
市議会議員

# 東村山・生活者ネットワーク 「誰のいのちも大切にされるまちづくりを」

## 東村山・生活者ネットワークニュース 通信 vol.158

発行日/2026年2月1日 発行/東村山・生活者ネットワーク 発行責任者/朝倉順子  
〒189-0013 東村山市栄町2-19-3 森田ビル201 TEL&FAX 042-392-7677  
hmy.net@hyper.ocn.ne.jp https://hmy.seikatsusha.me/



### 特集

## 「戦争とハンセン病」

「戦争とハンセン病療養所の子どもたち」を受講し、ドキュメンタリー映画「新・あつい壁」を鑑賞。自分自身が当事者になつたらいどうするかを考えた。

逃げ場を失つた子どもの  
「生き延び方」とは?

第一次世界大戦が始まり学校へも

行けなくなった子どもたちの居場所は、強制隔離された長島愛生園療養所だった。流動性のない中で生き抜いていくには、「子どもらしさ」を捨てることでした。支配する大人は兵役

を免れた人や母になれなかつた人。強者としての子どもたち。弱者としての子ども。子どもたちと少数の大人が暮らす丘で、大人の言つことに逆らわない子どもが優遇され、また差別を受けた。

小さな時期に親と強制的に  
離された子どもたち

親の愛情を受けられない子どもたちの心細さは計り知れないものがある。詩を書くことが気持ちを表せる

唯一の行為だったが、明るく前向きな詩だけが採用され、本質をついた内容は採用されなかつた。大人の浅はかな上辺だけの取り繕う姿に憤りをおぼえた。

閉鎖され自給自足を子ども達にも  
いらない子どもたち  
ハンセン病が原因で亡くなつては

強いたことで、栄養面や環境面も劣悪な中で生き抜くことができなかつた。

国立ハンセン病資料館 MUSEUM TALK 2025



はなこタイムスの飯岡 志郎さんと。  
国立ハンセン病資料館にて

### 現代でも差別、偏見は蔓延<sup>はびこ</sup>つていて

記憶に新しいのは熊本県のホテルで起きたハンセン病罹患者宿泊拒否事件。「お前たちは、ホテルに行くよ結核でした。足が不自由な子は、いじめの対象にされ、居場所を無くしてしまつ。いじめに加担せざるを得ない追い込まれた中で、生き抜くために自分の身を守つていたのかも知れません。被害者が加害者になり得ることがわかります。強いものが弱いものを作支配するパターンライズムがここにも根深くあると感じます。

記憶に新しいのは熊本県のホテルで起きたハンセン病罹患者宿泊拒否事件。「お前たちは、ホテルに行くよ結核でした。足が不自由な子は、いじめの対象にされ、居場所を無くしてしまつ。いじめに加担せざるを得ない追い込まれた中で、生き抜くために自分の身を守つていたのかも知れません。被害者が加害者になり得ることがわかります。強いものが弱いものを作支配するパターンライズムがここにも根深くあると感じます。

ハンセン病問題は  
今、現在も続いている

らい菌を恐れる余り、らい病罹患者を排除したことが、家族離散や一家庭中の悲劇を生んだ。二度と繰り返さないためにも自分の差別心・優生思想と向き合つ必要があるのでないでしょつか?

冤罪菊池事件(藤本事件)で  
奪われた尊い命



1/24(土)~3/29(日) 特別企画「ハンセン病問題と家族」の告知/国による誤った隔離政策と社会の偏見により、ハンセン病患者・元患者だけでなく、その家族も深刻な被害を受けてきました。国と社会の一人ひとりが問題解決のために何ができるかを共に考えたいと思います。

国立ハンセン病資料館 <https://www.nhdm.jp/>

マイトが投げ込まれた被害者の殺人事件。懲役刑および死刑確定後も通常の刑務所や拘置所に移送されるところなく、恵楓園内の菊池医療刑務所に収容されたまま3度の再審請求を行つたがいすれも棄却。1962年9月14日福岡拘置所へ移送され死刑が執行されています。3度目の再審請求が棄却となつた翌日のことでした。死刑執行後でも本人死亡でも、冤罪を、再審請求を国は認めるべきです。それが人間回復、人権尊重に繋がつていく道です。

### 差別や偏見は簡単には無くならない

ぜひ、国立ハンセン病資料館を!  
国立療養所多磨全生園を!訪れてください。

誤った国策である強制隔離・人権蹂躪の歴史を繰り返し、繰り返し、学び合つことで今を生きるわたしたちが、史実を正しく語つていきましょう。

(白石えつ子)